

【都道府県用中間報告書様式】

都道府県番号	19
都道府県名	山梨県

【都道府県教育委員会における学力向上フロンティア事業の取組】

学力向上推進地域名及び学校数，学力向上フロンティアスクール数

学力向上推進地域名	小学校 (うちフロンティアスクール)	中学校 (うちフロンティアスクール)	計 (うちフロンティアスクール)
山梨県学力向上推進地域	209校 (12校)	100校 (12校)	310校 (24校)

学力向上推進協議会（地区協議会）の設置数及び域内の学校数

地区協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
甲府地区協議会 (甲府市)	28校 (2校)	14校 (3校)	42校 (5校)
峡東地区協議会 (山梨市,塩山市,東山梨郡,東八代郡)	41校 (2校)	15校 (3校)	56校 (5校)
峡南地区協議会 (南巨摩郡,西八代郡)	31校 (2校)	16校 (2校)	47校 (4校)
峡北地区協議会 (韮崎市,北巨摩郡)	22校 (1校)	12校 (1校)	34校 (2校)
峡中地区協議会 (中巨摩郡)	32校 (3校)	14校 (1校)	46校 (4校)
富士北麓・東部地区協議会 (富士吉田市,大月市,都留市,南都留郡,北都留郡)	55校 (2校)	30校 (2校)	85校 (4校)

## 都道府県教育委員会としての支援策

### ( 1 ) 地区別協議会に対して

- ・義務教育課・各教育事務所代表者（各地区協議会の事務局）会等にて，文部科学省からの説明を伝えたり，各地区協議会の役割や平成15年度の前ティア事業の方向性等について指導・助言に当たった。また，平成16年度の前ティア事業の方向性等について確認する中で，各地区協議会を中核とした学力向上の取組の強化をお願いした。
- ・県の学力向上推進協議会で協議された内容や共通確認されたことなどを，各教育事務所の代表者を通じ，各地区学力向上推進協議会に持ち帰ってもらい，各地区の取組に生かせるようお願いをした。

### ( 2 ) 域内の小中学校（含：学力向上前ティアスクール）に対して

- ・前ティアスクールの校内研究会には，県の指導主事が優先的に訪問することとし，指導・助言に当たってきた。
- ・県として学力の実態把握に努め，その結果を前ティア校に還元し活用してもらうために，山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査を実施した。（「学力把握のための都道府県として取組について」参照）
- ・前ティアティーチャー研修会を開催し，研究推進のための支援を行った。  
〔第1回前ティアティーチャー研修会〕
  - ・山梨大学教育人間科学部教授 中村享史先生による講演「校内研究の進め方」
  - ・前ティアスクールによる研究概要の提案及び情報交換・協議  
（グループ協議・全体協議 中村教授，義務教育課指導主事，各地区協議会代表主幹指導主事等指導が指導・助言を行った。）
- 〔第2回前ティアティーチャー研修会〕
  - ・前ティアスクールによる取組状況と実践上の課題及び情報交換・協議  
（グループ協議・全体協議 中村教授，義務教育課指導主事，各地区協議会代表の主幹指導主事等が指導・助言を行った。）
- ・各教科において，子どもたちの基礎学力の向上につながる指導内容に基づいての授業の実践や授業改善のために，学力向上前ティア事業と「基礎学力向上やまなしプラン」との連携をはかり，県内の小中学校への支援を行っている。なお，今年度内に，各校種・各教科ごとに具体的な単元・題材例を使つての指導内容が

冊子にまとめられ、フロンティア事業実践報告書とともに、県内の小中学校に配布される予定である。

- ・ 県教育委員会のホームページにフロンティア事業の実践例を紹介し、実践研究の成果の普及・支援を行った。(「(3) 実践研究の成果の普及の方策の構築」参照)
- ・ 全県の学校長が集まる山梨県指導重点説明会で、平成16年度のフロンティア事業の方向性等について確認する中で、各小中学校の学力向上の主体的な取組の強化をお願いした。

### (3) 実践研究の成果の普及の方策の構築

- ・ 学力向上フロンティアスクールの実践例を山梨県教育委員会義務教育課のホームページを開設し、県民に対して情報発信ができるようにした。また、このことについて、県学力推進協議会で事務局が説明したり、各教育事務所、各市町村(組合)教育委員会、国・私立小中学校長に通知し、研究の実践成果の普及に努めた。
- ・ 各地区推進協議会と各フロンティアスクールが連携し、フロンティアスクールの中間発表会などを通じ、研究の実践成果の普及に努めた。
- ・ 県学力推進協議会において、協議された内容や助言内容などを、各委員がそれぞれの立場で、情報発信ができるよう依頼した。

## 学力把握のための都道府県としての取組について

平成13年度の国教育課程実施状況調査を活用して、山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査を実施し、今後の指導に生かせるようフロンティアスクールなどに、今回の調査結果をもとに、国との比較の中で、どの教科のどの領域、また学びへの意識などに、どのような課題があるのかについて分析したものを還元した。(「平成15年度 山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査結果の概要について」参照)

義務教育課

平成15年度 山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査結果の概要について

## 1 調査の趣旨

県内の小中学生の教育課程実施状況に関する調査を行い、児童生徒の実態を把握するための基礎資料とするとともに、指導上の問題は何かを明らかにして、今後の学校における指導の改善・向上に役立てる。

## 2 調査内容

1の趣旨に基づき、平成13年度に国立教育政策研究所が全国の小中学校を対象に実施した「教育課程実施状況調査」を使用して実施する。

併せて、児童生徒の学習に対する意識を明らかにするため、質問紙調査を実施する。

3 実施日 平成15年6月25日から7月11日（内1日を当該校で実施）

4 実施校 小学校 52校  
中学校 29校  
合計 81校

5 実施学年 小学校第6学年 中学校第1・2・3学年  
学力状況調査の範囲はいずれの学年も前学年までの内容とする。  
小学校第6学年 第5学年までの内容  
中学校第1学年 第6学年までの内容  
中学校第2学年 第1学年までの内容  
中学校第3学年 第2学年までの内容

6 児童生徒数 小学校 約2,400人（6年生の約26%）  
中学校 約6,400人（中学生の約24%）  
合計 約8,800人

7 実施教科数 小学校 国語・算数  
中学校 国語・数学・英語（1年は国語・算数）  
\*英語は、リスニング調査も実施する。

## 8 ペーパーテストの結果について

### (1) 教科・学年別に見た概要

学習指導要領の目標，内容に照らした学習の実現状況を，問題ごとの全国平均との比較から判断した本県の結果，

国語科：小6は，全14問中 9問が全国平均を上回るか同程度である。

中1は，全16問中15問が全国平均を上回るか同程度である。

中2は，全24問中17問が全国平均を上回るか同程度である。

中3は，全24問中21問が全国平均を上回るか同程度である。

算数・数学科：小6は，全28問中19問が全国平均を上回るか同程度である。

中1は，全25問中11問が全国平均を上回るか同程度である。

中2は，全23問中12問が全国平均を上回るか同程度である。

中3は，全26問中19問が全国平均を上回るか同程度である。

英語科：中2は，全24問中20問が全国平均を上回るか同程度である。

中3は，全25問中23問が全国平均を上回るか同程度である。

中1の数学を除いて，各教科・学年共に全国平均を上回るか同程度であるものの問題数が過半数以上を占めており，全体としてはおおむね良好な状況と言える。なお，中1の数学で新教育課程では未習の問題が2問含まれている。

## 9 質問紙調査の結果について（一部抜粋）

### (1) 勉強に対する意識(肯定的な回答について：そう思う)

勉強は大切だ：小6は，5.8%全国平均を上回っている。

中1は，5.0%全国平均を上回っている。

中2は，3.2%全国平均を上回っている。

中3は，5.7%全国平均を上回っている。

当該教科の勉強は大切だ：

【国語科】 小6は，7.2%全国平均を上回っている。

中1は，7.4%全国平均を上回っている。

中2は，5.3%全国平均を上回っている。

中3は，5.7%全国平均を上回っている。

【算数・数学科】 小6は，5.1%全国平均を上回っている。

中1は，3.4%全国平均を上回っている。

中2は、1.8%全国平均を上回っている。

中3は、5.3%全国平均を上回っている。

【英語科】 中2は、6.3%全国平均を下回っている。

中3は、3.7%全国平均を下回っている。

勉強が好きだ：小6は、1.6%全国平均を上回っている。

中1は、0.5%全国平均を下回っている。

中2は、0.1%全国平均を上回っている。

中3は、0.3%全国平均を上回っている。

当該教科の勉強は好きだ：

【国語科】 小6は、0.3%全国平均を上回っている。

中1は、1.4%全国平均を下回っている。

中2は、2.4%全国平均を上回っている。

中3は、0.8%全国平均を上回っている。

【算数・数学科】 小6は、5.0%全国平均を上回っている。

中1は、9.5%全国平均を上回っている。

中2は、2.8%全国平均を上回っている。

中3は、5.5%全国平均を上回っている。

【英語科】 中2は、5.3%全国平均を下回っている。

中3は、0.2%全国平均を下回っている。

(2) 授業の理解状況(肯定的な回答について：だいたい分かる)

学校の授業がどの程度わかりますか：

小6は、8.7%全国平均を上回っている。

中1は、7.2%全国平均を上回っている。

中2は、5.8%全国平均を上回っている。

中3は、6.9%全国平均を上回っている。

学校の授業がどの程度わかりますか：

【国語科】 小6は、2.9%全国平均を上回っている。

中1は、0.2%全国平均を下回っている。

中2は、1.8%全国平均を上回っている。

中3は、0.2%全国平均を上回っている。

【算数・数学科】 小6は、7.7%全国平均を上回っている。

中1は 12.1%全国平均を上回っている。

中2は、6.9%全国平均を上回っている。

中3は、9.0%全国平均を上回っている。  
**【英語科】** 中2は、5.3%全国平均を下回っている。  
 中3は、1.8%全国平均を下回っている。

(3) 学校の授業時間以外に、1日にだいたいどれくらい勉強をしますか。

全くしない： [全国平均 %]

小6は、1.1%全国平均を上回っている。 [10.6%]

中1は、0.1%全国平均を下回っている。 [10.8%]

中2は、4.4%全国平均を上回っている。 [14.3%]

中3は、2.6%全国平均を下回っている。 [17.1%]

30分以内：

小6は、0.5%全国平均を上回っている。 [19.1%]

中1は、6.2%全国平均を下回っている。 [16.7%]

中2は、2.5%全国平均を上回っている。 [11.9%]

中3は、0.2%全国平均を下回っている。 [12.2%]

30分以上1時間以内：

小6は、1.3%全国平均を上回っている。 [30.1%]

中1は、4.8%全国平均を下回っている。 [28.2%]

中2は、0.7%全国平均を下回っている。 [20.0%]

中3は、1.1%全国平均を上回っている。 [18.1%]

1時間以上2時間未満：

小6は、0.6%全国平均を下回っている。 [23.0%]

中1は、1.9%全国平均を上回っている。 [27.1%]

中2は、3.9%全国平均を下回っている。 [29.7%]

中3は、3.1%全国平均を下回っている。 [28.9%]

2時間以上3時間未満：

小6は、全国と同じ。 [9.0%]

中1は、7.6%全国平均を上回っている。 [10.5%]

中2は、1.6%全国平均を下回っている。 [17.7%]

中3は、2.6%全国平均を上回っている。 [17.9%]

3時間以上：

小6は、2.7%全国平均を下回っている。 [5.9%]

中1は、3.2%全国平均を上回っている。 [5.1%]

中2は、0.5%全国平均を上回っている。 [ 5.0% ]

中3は、3.4%全国平均を上回っている。 [ 4.6% ]

## 10 調査結果を踏まえた指導の改善について

### (1) 調査結果の総括

本調査結果から見て、本県の小学校6年生から中学校3年生までの学習状況は全国平均と比較する中で、全体として全国平均を上回っていることがうかがえました。

各学年、教科別においては、次のとおりです

#### 【小6国語科】(全国平均を上回るか同等である割合：64.3%)

・「理解」領域に課題が見られる。例として「自分の考えを明確にして表現することによって更に考えを明確にする」などの力の育成が必要である。

#### 【小6算数科】(全国平均を上回るか同等である割合：67.9%)

・特に「数量関係」領域の百分率に課題が見られる。また、「数量や図形についての知識・理解」の指導の充実も必要である。

#### 【中1国語科】(全国平均を上回るか同等である割合：93.8%)

・全体的には良好である。「漢字の読み書き」については、今後も継続して創意工夫ある指導を続けていく必要がある。

#### 【中1数学科】(全国平均を上回るか同等である割合：44.0%)

・今回の調査で、旧教育課程における問題が2問含まれていたため、未習の問題もあったが、「分数の除法計算」や「比の理解」など国の通過率を下回った内容領域についてきめ細かな指導を一層充実する必要がある。

#### 【中2国語科】(全国平均を上回るか同等である割合：70.8%)

・「言語事項」の領域に課題が見られる。今後「漢字を正しく読む」ことや、「文脈の中で語句等を正しく使える」よう指導の充実を図る必要がある。

#### 【中2数学科】(全国平均を上回るか同等である割合：52.1%)

・特に「図形」「数量関係」領域の内容の定着が十分でない。また、日常生活に関する問題が弱いことが伺える。きめ細かな指導の充実が必要である。

#### 【中2英語科】(全国平均を上回るか同等である割合：83.4%)

・全体的には良好であるが、さらに「概要・要点の把握」「書くこと」についての指導の充実を図る必要がある。

#### 【中3国語科】(全国平均を上回るか同等である割合：87.5%)

・全体的には良好であるが、「漢字や語句・語彙」など言語事項の指導を工夫

していく必要がある。

【中3数学科】(全国平均を上回るか同等である割合：73.1%)

・「数量関係」の数学的な表現・理解の観点や「同位角の位置関係」「証明」についての領域の指導に創意工夫をこらし、確実な定着を図る必要がある。

【中3英語科】(全国平均を上回るか同等である割合：92.0%)

・全体的には良好である。今後実践的コミュニケーション能力の育成と併せ「書くこと」の指導も必要である。

また、質問紙との比較から見て、

中学1年生の数学科において、質問紙での「数学が好き」、「数学の授業がわかる」は肯定的な回答が全国平均を上回っていましたが、ペーパーテスト結果では、全国平均を下回っている問題数が過半数を占めていました。また、英語科においては、質問紙での「英語が好き」、「英語の授業がわかる」は肯定的な回答が全国平均を下回っていましたが、ペーパーテスト結果では、全国平均を上回っている問題数が大半を占めていました。さらに、授業の中でわからないことを先生に質問したり、聞いたりすることは全国平均を大きく上回っていましたが、家庭での学習時間が少ないことなどが読みとれます。今後、調査結果をさらに分析し、課題及び指導の手だて等を明らかにしていきたいと考えています。

本調査は、本県において初めて実施したものでありますので、過去のデータと比較することができません。そのため、平成14年1・2月に文部科学省が実施した「教育課程実施状況調査」の全国結果と比較して判断したものです。

## (2) 指導の改善について

今回の結果から、各教科の内容、領域別あるいは評価の観点別に見ると、基礎的・基本的な知識の習得や思考力、表現力などについて課題となる部分が明らかになりました。これらについて、さらに分析、検討を行い、今後の学習指導等に生かされるようにしたいと考えております。

また、現在「基礎学力向上やまなしプラン」実践校及び「学力向上フロンティア事業」研究指定校等で、毎日の授業の見直しをはじめ、指導形態、指導方法、評価等について研究を行っているところです。これらの研究成果を生かしながら、今後も積極的に学習内容の確実な定着へ向けて取り組んで参ります。

## 学力向上推進協議会について

### (1) 開催時期及び参加対象

第1回 平成15年6月6日

#### 参加対象

山梨大学教授・山梨県市町村教育委員会連合会会長・山梨県都市教育長  
会会長・山梨県町村教育長会会長・山梨県校長会会長・山梨県教頭会会  
長・山梨県連合教育会会長・フロンティアスクール校長（平成14年度  
及び15年度からの指定校，小中学校各，2名）・山梨県総合教育セン  
ター副所長・山梨県教育事務所長会会長・山梨県教育委員会義務教育課  
課長・山梨県PTA連合会副会長・前山梨県校長会会長・山梨県各地区  
協議会代表者（主幹指導主事，指導主事，計6名）山梨県義務教育課主  
幹，主幹指導主事，指導主事，4名）

第2回 平成16年2月16日

#### 参加対象

第1回と同じ

### (2) 協議会の主な内容等

#### 第1回

目的 各フロンティアスクールの実践研究の成果などを公表するなどして，県  
内全域の学力向上を図る。

#### 主な協議内容及び報告された内容

【講演】「学力と評価について」 山梨大学教授 堀 哲夫先生

フロンティア事業についての事務局からの確認と説明

「平成15年度学力向上フロンティア事業実施要項」と「山梨県学力  
向上フロンティア事業実施要項」について

教育委員会としての支援策等について

フロンティアスクール代表校の事例発表（平成14年度からの指定校）

研究の概要，実践例の提案

甘利小学校

研究主題 「意欲を持ち，主体的に学習に取り組む子どもの育成」

主な研究内容

子どもたちの学力や意識の実態・調査分析 指導法の改善

個に応じた指導のための指導方法・学習形態の工夫と改善

基礎的・基本的知識や技能の習得を目指した指導法の工夫

上野原中学校

研究主題 「確かな学力を身に付けるための習熟度指導の実践」

主な研究内容

グループ編成の方法について

T・T指導のあり方について

自己評価表の作成と活用方法について など

協議

・学力向上の取組と普及の手だてについて等

(別添資料<sup>1</sup>を参照)

(第2回)

目的 第1回に同じ

主な協議内容及び報告された内容

平成15年度学力向上フロンティア事業の経過報告について

各地区協議会からの取組状況等について(別項の地区別協議会における特色ある取組を参照)

フロンティアスクール代表校の事例発表(平成15年度からの指定校)

井尻小学校と上条中学校の実践については，中間報告書を参照)

協議

・学力向上の取組，次年度に向けて等

指導・助言

山梨大学教授 堀 哲夫 先生

(別添資料<sup>2</sup>を参照)

・実施計画書において示した「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

(事業評価の実施方法・内容)

- 1 学力向上フロンティア事業説明会の開催（4月）
    - フロンティアスクール24校の代表者を集め、説明会を開催。
    - ・本事業の趣旨説明，予算等の説明，実践研究内容の検討，意見交換，質疑等
  - 2 学力向上推進協議会の開催
    - ・年間2開催（6月，2月）
    - ・各フロンティアスクールの研究方針，研究内容，研究方法，学力向上の普及等についての研究協議
    - ・学識経験者等から指導助言
    - ・各地区学力向上推進協議会の運営，活動内容等への助言
    - ・年次予定・・・1年次：県下の小中学校へフロンティアスクールの研究内容の紹介（普及活動） 2年次：フロンティアスクール実践研究中間まとめ作成・配布  
ホームページの開設  
3年次：フロンティアスクール実践研究発表会の開催  
実践研究のまとめ作成・配布  
県広聴広報課をとおしての広報活動の実施
  - 3 学力向上推進協議会小委員会（基礎学力向上やまなしプラン）の開催
    - ・年間6回開催 各教科における本質を踏まえた，指導内容の開発及び指導内容の適切な位置づけなどを検討した。  
(別添資料3を参照)
    - ・今年度内に研究をまとめて，県下の小中学校に配布予定である。
  - 4 フロンティアティーチャー研修会の開催
  - 5 ホームページの開設
  - 6 山梨県公立小中学校教育課定実施状況調査の実施
- （「 都道府県としての支援策」を参照）

（進捗状況（成果，課題等））

「基礎学力向上やまなしプラン」との連携を図る中，学力向上推進小委員会を開催し，各教科別に基礎学力の向上につながる学習内容の検討やこれに基づくフロンティアスクールの授業実践により，学力向上を図る基礎ができた。また，学力を広い意味でとらえ，特定の教科だけでなく，さまざまな教科で実践研究が進められたことも大きな成果である。また，来年度は，家庭との連携を進める一方，「基礎学力向上やまなしプラン」の研究討議の成果を，フロンティアスクールで実践・検証することによって，取組を強力に進める計画である。なお，県内の小中学校の学力向上の普及のために，フロンティアの実践報告書とともに山梨プラ

ンの冊子を作成し，県内の小中学校等に配布する予定である。（平成14年度のフロンティア実践報告書及び山梨プランの冊子については，各学校で活用が図られるよう配布した。）

フロンティアスクールの実践として，例えば，学力のとらえ・教材研究・自己評価・指導方法等の重要性に教師自身が気づき，授業改善に努力していることや，個に応じた指導の取組によって児童・生徒の学習に対する満足感や意欲化がみられたことなど，多くの成果が報告され，学力向上に向けた取組は前進している。中でも，「特色ある取組事例」として，児童・生徒の実態を踏まえ利用の仕方など工夫すれば，どの学校でも使用可能な自己評価表の具体的モデルが示されている。このような事例が数多く発表され，フロンティアスクール以外にも有効活用されることが，学力向上の普及につながるものと考えている。

会議の開催・各地区協議会への支援・各学校への研究会への指導主事の指導・助言等は，おおむね実施できた。

多くのフロンティアスクールで，学力向上の普及の手だてとして，中間発表会等を開催し，各地区の推進協議会ではその成果を普及するため，地区内の研究主任や10年目研修の教員など参加体制をととのえ，啓発活動を行うなどの支援を行った。

各フロンティアスクールが，実践的な研究を一層推進し，その成果が多くの小中学校で共有化できるようなものにまとめ上げ，学力向上の普及に努めていくことや，また，多くの小中学校が，フロンティアスクールの成果等に学びながら，学力向上のための取組を主体的に行っていくことが望まれる。

今年度に引き続き，児童・生徒の学力の実態把握に努めるとともに，児童・生徒・教師等の学力向上に関する意識を把握し，取組に生かして行きたい。

県学力向上推進協議会，各地区推進協議会，フロンティアスクールなど，連携を図る中，引き続き学力向上の普及へ向け，県民や保護者等も含め情報発信をしていく。さらに，普及の手だても検討していきたい。

この取組が，単なる指定を受けた期間だけの取組にならないように，指定期間終了後にも，引き続き学力向上に向けた取り組みができるような基礎を築いていきたい。

## 【地区別協議会における特色ある取組】

### （地区内の学校に対する支援策）

- ・フロンティアスクールの中間発表会等に，10年経験者研修の授業研修会を位置づけるなど，参加体制を整え，普及・啓発活動を行った。

（各地区協議会）

- ・基礎学力向上山梨プランとの連携を図り，協議会にプラン実践校の研究主任をオブザーバーとして参加をお願いするなど，研究内容の充実を図った。

（各地区協議会）

### （実践研究の成果の普及方策）

- ・指定校の授業公開や事務局だよりの発行などにより，フロンティア事業の内容や指定校の研究内容を管内の小中学校に周知した。

（峡南地区協議会）

- ・広報「中巨摩」を通して公開研究発表会について，管内の小中学校に周知した。

（中巨摩地区協議会）

- ・現在，フロンティア事業に関わる各学校のホームページを立ち上げるための努力をしている。

（甲府地区協議会）